

公明こういち 市議会ニュース

また、岡崎市長からは、本市の交通安全全政策の指針ともなる「高知市交通基本計画」が策定後7年を経過し、自転車運転を取り巻く環境なども大きく変貌している実態に触れながら、高知県や警察とも連携を図りこれまで以上に交通安全施策の取り組み強化を図る事や、意識啓発の中心的な役割を果たすことなどについて答弁がありました。中でも、

1、高知県との連携のもとで児童・生徒の、ヘルメット着用の促進を図るなど、新たな総合計画の策定に合わせて見直しが必要であると考える。

2、小・中学校における自転車の安全な乗り方や交通ルールやマナーを教える交通安全教室の充実をこれまで以上に図つていく。

3、ヘルメット着用及び自転車損害保険加入への啓発を行なっていく。

最後に、市独自の条例制定の必要性についても「今後の交通基本計画見直しの作業の中で他都市の先進事例を研究し進めていく」との重要答弁がありました。

食品ロスは、食品メーカーや卸販売店、小売店、飲食店、家庭など「食べる」ことに関係する様々な場所で発生しており、発生量は約357万トンで、一般家庭では食品ロス全体の約44%で、一年間約289万トンが発生しています。

食品を食べずに廃棄した理由として多いのは「鮮度の低下、腐敗、カビの発生」また「賞味期限・消費期限が過ぎてしまった」などが挙げられ、家庭から出される生ごみの中には、手つかずの食品が多くみられ、さらにその中には賞味期限前にもかかわらず捨てられているものがあります。

今回の質問で、家庭での食品ロス削減に対する取り組みとして、家庭で捨てられる食品の基礎データ調査をおこなうことを提案し、執行部からは食品ロス削減室内連絡会を活用し関係部署と協力して、家庭に対する取り組みの一つとしてモニター調査を実施するとの答弁を得まし

◆食品ロス対策

わが国では本来、食べられるにもかかわらず捨てられてしまつた食品は、約646万トンであると推計されています。

この食品ロスを国民一人当たりに換算するとお茶碗一杯分、約139gの食べ物が、毎日捨てられていくことになります。

高知市でも平成26年度の数値で食品ロスが約1万6500トンとなり、可燃ごみの収集量の約15%に値します。

食品ロスは、食品メーカー・卸販売店、小売店、飲食店、家庭など「食べる」ことに関係する様々な場所で発生しており、発生量は約357万トンで、一般家庭では食品ロス全体の約44%で、一年間約289万トンが発生しています。

◆よさこい祭りにSDGsを取り入れる
寺内憲賀議員は、次のとおり一問一答方式により、個人質問を行いました。

発行所／高知市議会公明党
住 所／〒780-0870
高知市本町4丁目1番24号
TEL:088-823-9403
FAX:088-871-2485

2019年(平成31年)2月1日 第44号



第467回
高知市議会
定例会

公明4氏 市民の声を市政に反映！



いとう ひろゆき
伊藤 弘幸 議員



おおくぼたかし
大久保尊司 講昌



てらうち のりよし
寺内 審資 議員

東、地域猫活動について
知市が実施している野良猫対策でも活動とはどういう活動で、その効果が度途中で不足になつた「猫の不妊手術」に対し、補正予算を組むべきになりました。

◆本宮川の環境の改善について
西森美和議員は以下の提案を行いました。
本宮川では浸水防止のため、大雨の際は鏡川からの取水を遮断する対策が講じられてきました。そして天候が回復した後も約三日間ほど水無川の状態となり、魚などの希少生物が干上がってしまう環境が四十年以上続いています。

現地調査で最も心が痛んだのは、旭小学校の子ども達にとって登下校の時、魚が死んでいるのは日常の風景だということです。持続可能な社会の構築に向けた国際目標であるSGDsでは、環境への配慮は重要な位置づけであるとともに、平成三十一年度からの中学校の指導要綱でも、社会・理科・総合学習などが「環境」という横串でつながれるほど、次の世代の共通の価値観となっています。

これまでの経緯を理解しつつ、生物の多様性を守る理念が国・県・市の環境政策はもとより、あらゆる公共事業や河川管理・まちづくりの基本理念となってきた今だからこそ、解決しなくてはならない課題だと強く訴えました。

教育長から「本宮川は子ども達の身近な学習環境として、大きな意味を持つ」との認識が示され、関係部局でも同じ方向性をもっていることを確認した上で、環境政策・まちづくり・河川の管理・農業用水の確保・環境教育の観点から、府内で横断的に協議する場を設置するよう求めました。さらにポンプの設置などの具体策も提示し、解決にむけた本格的な議論を要請しました。

今後とも「ふる里の川本宮川をとりもどす会」はじめ、住民の皆様から頂いた貴重なご意見を参考に高知市議会公明党としてしっかりと取り組んで参ります。

◆本宮川の環境の改善について
西森美和議員は以下の提案を行いました。
本宮川では浸水防止のため、大雨の際は鏡川からの取水を遮断する対策が講じられてきました。そして天候が回復した後も約三日間ほど水無川の状態となり、魚などの希少生物が干上がってしまう環境が四十年以上続いています。

現地調査で最も心が痛んだのは、旭小学校の子ども達にとって登下校の時、魚が死んでいるのは日常の風景だということです。持続可能な社会の構築に向けた国際目標であるSGDsでは、環境への配慮は重要な位置づけであるとともに、平成三十一年度からの中学校の指導要綱でも、社会・理科・総合学習などが「環境」という横串でつながれるほど、次の世代の共通の価値観となっています。

これまでの経緯を理解しつつ、生物の多様性を守る理念が国・県・市の環境政策はもとより、あらゆる公共事業や河川管理・まちづくりの基本理念となってきた今だからこそ、解決しなくてはならない課題だと強く訴えました。

教育長から「本宮川は子ども達の身近な学習環境として、大きな意味を持つ」との認識が示され、関係部局でも同じ方向性をもっていることを確認した上で、環境政策・まちづくり・河川の管理・農業用水の確保・環境教育の観点から、府内で横断的に協議する場を設置するよう求めました。さらにポンプの設置などの具体策も提示し、解決にむけた本格的な議論を要請しました。

今後とも「ふる里の川本宮川をとりもどす会」はじめ、住民の皆様から頂いた貴重なご意見を参考に高知市議会公明党としてしっかりと取り組んで参ります。

エアコン設置緊急要望



高知市議会公明党は、政府が平成30年度の補正予算案に公立小・中学校へのエアコン設置補助費817億円を盛り込むことを踏まえ、岡崎誠也高知市長に対して、市内の公立小・中学校の全教室にエアコン設置を求める緊急要望を行いました。

公明党は、全国の公立小・中学校の普通教室へのエアコン設置率が49.6%と全国の自治体間で設置状況に開きがある事から、平成30年の酷暑を踏まえ、学校の安全対策として文科相に対し「猛暑から子どもの命と健康を守るために、教室へのエアコン設置を速やかに進めること」について申し入れを行い、高知市議会公明党でも、平成30年度の予算要望の重要事項に市内の小・中学校にエアコン設置を盛り込んでいました。

このような中、10月15日には臨時閣議で全国の小・中学校へのエアコン設置補助費817億円を含んだ補正予算案を決定し、この予算が臨時国会で承認されたことによって、高知市議会公明党はこれらの補正予算を活用し、速やかに設置がなされるよう緊急要望を行ったものです。また、高知市では、こうした国の動きにあわせ、平成30年11月12日に第466回高知市議会臨時議会を開催し、エアコン設置を含む28億円の事業予算案が執行部より提案され、全会一致で採択されました。

この席上、公明党は以下のとおり賛成討論を行いました。

- 1、公明党は今後も政府に対して財政面での支援を求めていく
- 2、今後は、普通教室だけでなく特別教室や体育館へのエアコン設置を計画するよう求める
- 3、エアコンの使用においては、むやみに制限することなく適正に使用させる

ことなどの具体的な意見とともに、公明党として設置後のランニングコストについても、自治体の財政支援を訴えていることなどを紹介し補正予算に賛成しました。

平成31年度 予算要望書 高知市長に提出

高知市議会公明党では31年度予算要望を行いました。本市の平成31年度予算編成方針によると、既存事業の見直しを図りながら、南海トラフ地震対策と人口減少問題の克服に向けた予算編成を進めています。

そこで公明党では市民の声に応えた合意形成型の市政運営を求め、平成30年11月22日に時代に即した機能と特色のある154項目の平成31年度予算要望書を提出しました。



(平成30年10月22日)

太陽

「戌」から「亥」に干支は移り、5月には『平成』から新元号に▼平成元年に誕生した人々も今や、次の時代を担う働く世代に成長していよう▼この30年社会構造は、人口減少へと急速に変化している。また自然界では、南海トラフ地震発生の確率は危機感迫るものとなり、その上、地球温暖化の影響で災害は頻発しことのほか昨年7月の豪雨災害は平成最悪の被害と言われた。まさに、世相は「震」から「災」に▼「禍を転じて福と為す」のことわざが伝える生き様は並々ならぬ覚悟で臨まねばならない試練が待ち受けているよう。しかし、身にふりかかった災難をも自身の糧として立ち上がるとき、人は思わず力を發揮するという▼今年の干支「亥」が猪突猛進の異名を持つように臆せず進み、災い転じて「幸」を実感する未来を感じたいそして、新元号のもとで皇室の繁栄と被災地の一日も早い復興を願い、年の瀬には「幸」「勝利」の文字を掲げたい。

（凜）